

令和5年度警固屋中学校区研究推進計画

校番10 呉市立警固屋小学校

校長名 大窪 健

1 学校教育目標

「未来に挑む 自分を創る」

2 目指す児童生徒像

未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立して貢献できる児童・生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力 等	学びに向かう力, 人間性等	
	知識・技能	思考力・判断力・表現 力	主体性	協働性
後期	課題解決のために、探究の過程の中で得た知識や技能, 既存の知識・技能, 自身の経験などと結び付けて考えることができるような、深い理解を伴った知識・技能を有している。	既存の知識・技能や探究の過程で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い、場面や状況に応じて課題解決の計画を立てたり、解決策を見出したりしている。	自らが設定した課題の解決に向けて、粘り強く試行錯誤しながら、自らの意思で取り組もうとしている。	自らが設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整して取り組もうとしている。
中期	課題解決のために、活動や体験の中で得た知識や技能, 自身の経験などと結び付けて考えることができるような知識・技能を有している。	既存の知識・技能や活動や体験で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い解決策について考えている。	設定した課題の解決に向けて、粘り強く試行錯誤しながら、進んで取り組もうとしている。	設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整して取り組もうとしている。
前期	課題解決のために、身近な人々, 社会及び自然を自分とのかかわりでとらえるような知識・技能を有している。	具体的な活動や体験の過程で得た知識・技能を活用して、情報を整理し、まとめ表現している。	課題の解決に向けて、あきらめず進んで取り組もうとしている。	課題の解決に向けて、自分の考えを持ち、他者の考えを聞いたり、他者と協力したりするなどして取り組もうとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び合う児童生徒の育成

～確かな学力の定着に向けた自己肯定感を高める取組からのアプローチ～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「自分を創る」を学校教育目標とし、「未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立し貢献できる児童・生徒」の育成を目指して、豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開してきた。

昨年度は、この学園構想のもと、研究主題を『新たな知や価値を創造し、主体的に学び合う児童生徒の育成～教科等の本質を追究した「考える授業」づくり～』として、各教科等において、学習指導要領で示されている「知識・技能」と「思考力、判断力、表現力等」のバランスのとれた育成を目指して研究を進めてきた。

具体的には、一単位授業において「教科目標・単元目標から本時のねらいを焦点化すること」「教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化すること」「本時のねらいを達成させる思考場面の設定（考える技法・思考ツール等）を行うこと」「本時のめあてに対応したまとめ・振り返りを行う」の4点に着目し、授業改善を進めた。このことを、「警固屋学園授業モデル」としてまとめ、小中教職員に研究の具体的な方法として示した。

12月に学園全体で実施した標準学力調査の正答率について、全国平均との差を、昨年度と今年度で比較した所、今年度どの学年も「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」とともに上昇し全国平均を上回った学年も多かった。

国語科では、「漢字の読み書き」「話し合いをもとにした言語活動」「文章を読み取って要約したり、情報を再構成したりする」ことに課題が見られた。算数・数学科では、「知識・技能」に課題が見られる学年があるとともに、「文章題からの立式」、「図や言葉を用いた説明」などにも課題が見られた。

このことから、児童生徒が自から問いを持ち問題を解決しようとする力、適切な方法で情報を集め、取捨選択しながら求めることに向けて情報を表現する力や再構築する力に課題があると考えられる。

また、児童生徒アンケートにおける「主体性」「協働性」に関する結果は次の通りである。

	質問項目	小学校	中学校
主体性	授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	86.8%	65.7%
協働性	授業では、友達と話し合う等して自分の考えを深めたり広げたりする。	83.4%	86.2%

「主体性」については、小中で数値にばらつきがみられる。コロナ禍で活動が制限される中、自分に自信が持てず自尊感情が低下した児童生徒がいることや、単学級であり人間関係の構成上人任せにしている児童生徒も見受けられる。子どもが自ら目標や「問い」を持ち、これまで学習したことを活用して、目標に向かう試行錯誤する姿を目指したい。

「協働性」については、小中ともに肯定的評価が80%を超えているが、コロナ禍のため、指導する側が、どれだけ児童生徒に「協働的に課題を解決する場」を与えてきたかと言えば、不確かである。グループ活動が制限される中、思考スキルや思考ツール、ICT機器の活用は取り入れているが、本来あるべき姿の「自ら課題を発見し、解決のために実際に調査したり聴き取りをしたりして、協働的に解決する」ことについても十分とは言えない。そのため、今後は、児童生徒が、互いに自分の考えを述べ、他者の意見を聞いて、よりよい解決方法を見出していく姿を目指したい。

以上のことから、今年度は、教科の「見方・考え方」を働かせねらいに迫る思考場面について吟味し深い学びへつながる「警固屋学園授業モデル」の考え方を実践し、授業改善を行う。また、総合的な学習の時間を基盤とした教科を生かす教科横断的なカリキュラムの流れを構成し、児童生徒の主体性を引き出していきたい。自ら問いを持ち解決に向けて情報を再構築し、他者へ伝える力を育てる。そのことにより、児童生徒が主体的に学び合う力を高め、学園で目指す資質・能力を育成していきたい。

(3) 研究仮説

今年度の副題にもあるように、確かな学力の定着に向け、各教科等の「基礎・基本」を確実に身に付けさせるためには、主体的に取り組もうとする意欲・姿勢が必要である。そのための「できるかもしれない」

「自分もできた」という思いにさせるよう、設定した行動目標を評価していくことで自己肯定感を高めていき、それを土台に「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の授業実践を積み重ねていけば、研究主題に迫ることができる考える。行動目標は、より具体的に15歳の卒業時の児童生徒が「憧れる姿」を想定し児童生徒が設定する場を設けることとする。また、各教科等で培った知識・技能を、生活科や総合的な学習の時間で活用できるカリキュラムを構築して取り組むことによって、警固屋学園の目指す児童生徒の資質・能力が育成できると考える。

5 研究内容

児童生徒が必要だと思う目標となるよう話し合いの場面を持ち、行動目標の項目設定をする。また、総合的な学習の時間を基盤とした教科を生かす教科横断的なカリキュラムを構成し、各教科等の「見方・考え方」を働かせた深い学びへつながる授業づくりを図る。

部会毎に、次の内容で実施する。

- 学びを育む部会…各教科
- 人を育む部会…生活科・総合的な学習の時間

具体的には、次のことを実践する。

- ・ 総合的な学習の時間との関連、教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化する。
- ・ 深い学びにつながる思考場面の設定（対話・考える技法・思考ツール等）を行う。
- ・ 児童が自ら問いを持ち解決に向けて情報を再構成し、他者へ伝える『授業モデル』の構築
- ・ 知識・技能を徹底して育てる「鍛える授業」、思考録・判断力・表現力を育む「考える授業」のバランスを考えた単元構成を行う。

6 検証について

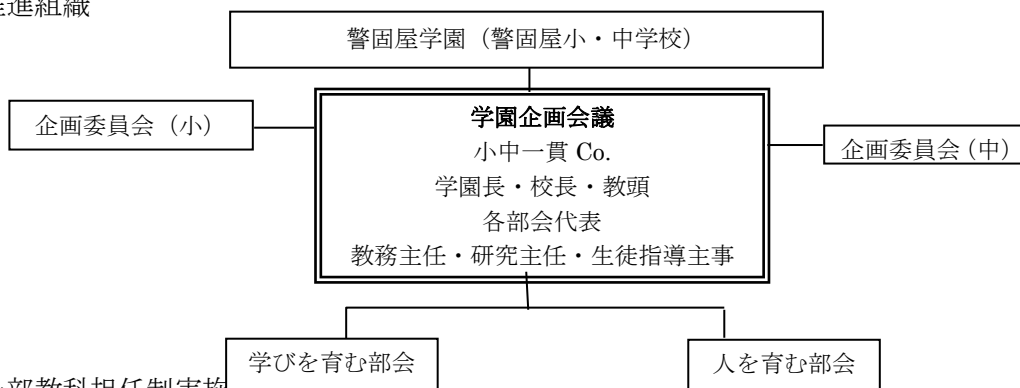
検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 児童生徒の学力は向上したか。	「知識・技能」に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 +3.04 中学校 -2.18	小学校 +5.0 中学校 +3.0
	「思考力・判断力・表現力」に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 +3.71 中学校 -1.36	小学校 +5.0 中学校 +3.0
② 資質・能力を育成することができたか。	「情報収集」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 42.9% 中学校 57.2%	小学校 60%以上 中学校 60%以上
	「協働性」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 83.4% 中学校 86.2%	小学校 90%以上 中学校 90%以上

学習に関する意識調査 6月・12月【全学年対象】

標準学力調査（業者テスト）12月【全学年対象】

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

- (中→小) ・国語科
 ・算数科 小学校第6学年 (2学期実施)
 ・外国語活動 小学校第6学年 (3学期実施)
 ・体育科
- (小→中) ・中学校補習授業 (夏季休業中に実施)

イ 小学校教科担任制

- ・警固屋小 第6学年 (理科・書写) 第5学年 (理科・書写) 第4学年 (理科・書写)
 第3学年 (理科・書写) 第2学年 (書写) 第1学年 (書写)

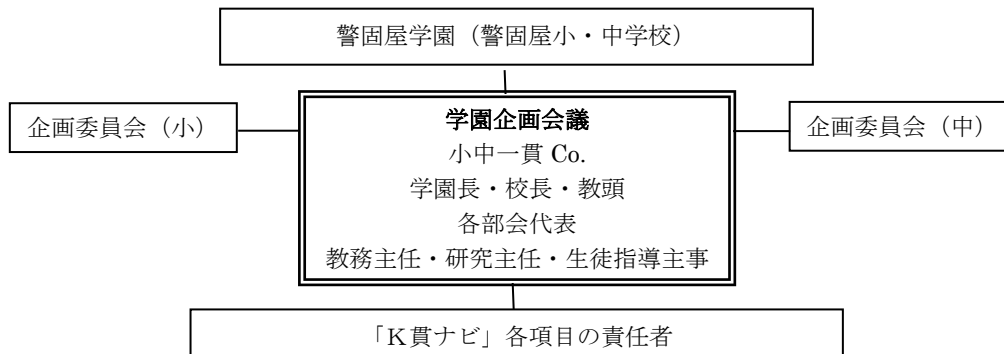
8 学園研修計画

【日程】	【研究】責任者：研究主任	小学校研究授業 責任者：小学校研究主任.	中学校研究授業 責任者：中学校研究主任	【小中一貫教育】責任者：小中一貫 Co.
4/6 (木)	第1回 ○今年度の研究の方向性と研究主題の共有化 ・研究推進計画,カリキュラムマップ ○部会別研修 ・組織作り, 研修内容確認			・「K 貫ナビ」について ・学園運動会に向けて
4/26 (水)	第2回			・学園運動会係打ち合わせ ・配慮を要する児童生徒
5/9 (火)	第1回「未来の学び」推進協議会			
6/6 (火) 6/13 (火)	理論の共有	第1回研究授業 国語科 (第2学年) 第2回研究授業 国語科 (第1学年)		
7/4 (火)		第2回「未来の学び」推進協議会	算数・数学指導案検討	
7/6 (木)		第3回研究授業 算数科 (第3学年)		
8/3 (木)	第3回 ○「学びの変革」に係る研修 (報告) ○部会別研修 ・授業研究 単元の内容について			

8/28 (月)	実践 研究	第4回 ○全国学力・学習状況調査課題分析			
時期 未定		第5回 ○部会別研修授業研究に向けて ・呉版単元構想シート・指導案検討			
9/8 (金)		第6回 学園研究授業 第1回「未来の学び」研修会 9年数学		第1回研究授業 数学科（第9学年）	
9/15 (金)			第4回研究授業 算数科（第4学年）		
9/19 (火)		第2回「未来の学び」研修会 7年総合		第2回研究授業 総合的な学習の時間（第7学年）	
10/13 (金)		第7回 学園研究授業 第3回「未来の学び」研修会 6年総合	第5回研究授業 総合的な学習の時間（第5学年）		
11/21 (火)		第8回 学園研究授業 第4回「未来の学び」研修会 6年算数	第6回研究授業 算数科（第6学年）		
11/28 (火)		第3回「未来の学び」推進校議会			
12月					
2/5 (月)		第10回 ○標準学力調査課題分析 ○部会別研修 ・授業研まとめ ・「学習」に関する意識調査結果, ・カリキュラムマップ見直し			「K貫ナビ」の見直し (責任者同士) ※責任者同士で協議日 を別に設定してもよい。
3/12 (火)		第11回 ○「学びの変革」に係る研修（報告） ○部会別研修 ・本年度の成果と課題（協議） ○次年度研究推進計画について			次年度「K貫ナビ」（案） について（報告）

9 その他

(1) 小中一貫教育推進組織



(2) 行事・内容

- 学園運動会の実施（5月）
- 合同避難訓練の実施（11月）
- 異学年交流活動 2・7年 3・8年 4・9年 総合的な学習の時間に位置付けている。
- 学園通信「ひまねき」の発刊（年間4号）
- 小中合同の取組のマニュアル「K貫ナビ」に沿った取組の実施，及び見直し。小中それぞれ各項目の責任者を決めている。

「K貫ナビ」概要	
夏休みの補習	中学生の夏期休業中の補習を実施し，小中教職員で学習指導にあたる。
読書貯金通帳	読書ページ数を記録し，各学年の目標達成をめざす。
掲示物等環境整備	作品交流・総合的な学習の時間の成果物の掲示など
学園朝会	学園の行事やいじめ撲滅キャンペーンの取組に関する内容。（年5回実施）
いじめ撲滅キャンペーン	小学校計画委員会，中学校生徒会執行部からなる「いじめ防止委員会」を中心に，いじめ撲滅標語の作成と啓発，いじめ撲滅のための取組の実施を行う。
6年生部活動参加	6年生が中学校部活動の見学と体験を行う。（年2回程度）

学園教育目標 「未来に挑む自分を創る」
 <めざす児童生徒像>
 「未来への展望を持ち、自他の幸せを目指し、自立して貢献できる児童生徒
 (他者(ひと・もの・こと)との対話を通して新たな知や価値を創造し、主体的に学び合い行動する子ども)」

<研究主題> **確かな学力に向け、主体的に学び伝え合う児童生徒の育成**
 ～ 基礎・基本の徹底から学びを深める授業展開へ ～

